

目 次

はしがき

第1章 言語に対する生成文法のアプローチ	1
1. 内在的言語の基本的特性	9
2. 言語能力と言語使用	12
3. 内在的言語の生得性	15
4. 普遍文法のすがた	21
5. ミニマリスト・プログラム	27
第2章 方法論的二元論と言語に対する外在的アプローチ： パットナムの場合	33
1. 反自然主義的アプローチ	34
2. 言語に対する外在的アプローチ	39
3. 「規則に従う」とは？：ウィトゲンシュタインのパラドックス	49
4. 語の意味と社会的役割：Putnam (1975)	59
5. 何でも理論の誤謬：Davidson (1986)	70
6. パットナムによる反論：社会的実在としての言語	77
7. 文法の自律性：サールによる批判	83

第3章 方法論的二元論：クワインの場合	93
1. 全体主義：分析的真理と総合的真理の区別の否定	94
2. 根元的翻訳パラダイム	97
3. 「意識化できない規則に従う」とは？	104
4. 言語学的証拠と心理学的証拠	110
5. 言語獲得の問題：行動主義	119
第4章 心身問題	141
1. 生成文法理論にとっての心身問題	142
2. 「機械の中の幽霊」に基づく自然主義	147
3. 唯物主義の批判：機能主義	152
4. 唯物主義の批判：サール	157
5. 反心理主義：意識化の問題	162
第5章 生物言語学：デカルト派言語学を乗り越えて	167
1. デカルト派言語学：言語使用の創造性	169
2. デカルト派言語学を乗り越えて	175
参考文献	183
索引	189